



果樹課
大和屋 尚享

獣害対策に電気柵を 早めに設置しましょう！



昨年、クマ被害が多く発生し、山間部や果樹園だけでなく、市街地まで広がりました。今年もすでにクマの出没が確認されています。果樹園でのクマ被害は「食害」だけでなく、木に登り、クマ柵を作ったり、果実を食べる時枝を引っ張る際に生じる「枝折れ」も大きな問題になります。目に見える被害以外にも、「園地に行ったらクマがいるかもしれない」「襲われるかもしれないから園地に行きたくない」といった恐怖心が発生し、心理的な影響もみられません。

さらにここ数年、果樹園ではイノシシ被害が増えています。イノシシは鼻先で土を掘り起こし、ミミズや昆虫の幼虫等をエサにしますが、土が掘り起こされることから、被害が拡大すると乗用草刈機等の走行が困難になってしまいます。クマやイノシシの対策には電気柵が最も有効になりますので、今回は設置の際のポイントを紹介いたします。

■電気柵設置のポイント

◎被害を受ける前に設置

最も重要なのは、被害を受ける前に設置することです。被害を受けてから慌てて設置する生産者が多いようですが、この場合、電気柵を設置しても防衛しきれない可能性があります。クマは学習能力が高いことが知られていますが、執着心も非常に強い動物です。

一度園地内に侵入し、そこがとても良いエサ場だと認識すれば、電気柵を突破する可能性が高くなります。このため、園地内に一度も侵入させないことが重要です。



◎もし突破されたら

一度突破された場合、2重張りをする方法があります（トリップフェンス、図1）。メインとなる電気柵の外側に、1段〜2段で張る方法です。突破されたと思われる一部分の外側にだけ張っても効果的です。

◎傾斜地での設置

設置しても侵入された事例で一番多いのが、適切に設置されていないことです（特に傾斜地等が多い）。最下段のワイヤーが地面と適切な間隔になっているかが重要になります。

クマやイノシシの場合、地面から20cmになっているかを確認しましょう。高すぎるとくぐられて侵入されてしまいます。

◎下草の管理（漏電防止）

下草が電気柵のワイヤーに触れると漏電して効果が低下するので、こまめに下草を管理します（主に除草剤）。また、時々テスターで電圧を測ってみましょう。

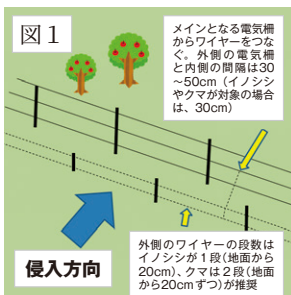
◎おわりに

電気柵は心理柵とも呼ばれ、動物に対して「この線は触ると痛い！これは怖いものだ！」と認識させるためのものです。

設置することで、大切な作物を守ることは勿論、自身への安全にもつながります。横手市では今年度も電気柵の購入助成を行いますので、助成を希望する方はお早目に申請ください。



▲電気柵を設置した様子



◇お問い合わせ◇

果樹課

☎ 0182-23-6266